

I 実践

1 研究主題

生徒の人権感覚や人権意識を育成するための教育活動の充実と人権教育推進計画の工夫・改善

(1) 主題設定の理由

人権の基本にあるのは、一人一人の人間の尊厳である。そのため、「茨城県人権施策推進基本計画」に基づき、「教育活動全体を通して人権尊重の精神を養うとともに、差別や偏見をもたない児童生徒の育成」を目指している。そのための課題の一つが、「人権問題の理解については知識理解を中心とした学習であったことから児童生徒に人権感覚が十分身についていないこと」である。そこで、教科や領域での教育活動全体で体験的な活動や話し合い活動を通して理解を深めることができれば、一人一人の人権に対する意識を高めることができると考えた。

(2) 研究のねらい

各教科、道徳、特別活動等の学校生活全体を通して、人権教育の充実を図り、人権尊重の精神の育成を目指す。

2 実践内容

(1) 学級活動における「人権問題」に関する授業（第1学年）『自分の夢をかなえよう』

ア 「いろいろな職業について考えよう」の資料を読んで話し合う。

イ 話し合いを通して、「男女の性別にとらわれることなく、誰もが自分の夢をもって努力することで自己実現ができること」について理解を深める。

(2) 道徳の時間における「人権」に関する授業（第3学年）

ア 資料「いのちより大切なもの…星野富弘」を読んで話し合う。

イ 話し合いを通して、「夢や希望をもつことの大切さ」について考えたことをまとめる。

(3) 学校行事での取り組み

ア 「人権教室」（11月20日対象1年生…3名の人権擁護員が来校してクラス毎に実施）

※資料・・・平成25年度人権作文入選「笑顔のために」…両親が障害者の家族生活



【資料を読み合う】



【真剣に話し合う】



【自分の考えを書く】

★あなたは、「人間は皆平等でかけがえのない存在」だと思いますか。

私は、笑顔のために読んで、人間は平等だと思いましたが、差別、いじめ、障害など人間を差別することや、悪いことをしないと、たくさんあります。でも、皆は同じ社会、人間として生きてきたはずなのに、どうして差別されなくちゃいけないと起こるのかとても理解できません。このぼろがゆい、近所のおばさんに「かわいそう」といわれ、ショックを受けました。それは、親、障害者を差別するような言葉ではないのかと読んで思いました。相手がどう思っているのかも知らずに、自分の言いたいことを言っていて、終わるというのは人間の悪い所です。どうして同じとか、仲良くなりたいたいと思えないのか、それとも思っている気持ちも足りないのかと私は深く考えさせられました。私は、障害者でも、どんな人であらうと仲良くしたい、差別をしないような人間になろうと思いました。	私は、笑顔のために読んで、障害者とかつうの人のちがいは、できることとできないことがちがうだけだと思いました。 「笑顔のために」では全く目が見えない父と全く耳が聞こえないという母が障害者だけど、私たちにたて運動が得意な人、苦手な人、勉強が得意な人、苦手な人だ、ています。目が見えなくても耳が聞こえなくてもそれをカバーできちようにかんば、ていことも、笑顔のためにの中にもありました。私たちだ、て運動が苦手だからかんばううとか勉強が苦手だからかんばううとしています。だから障害があるから変なとかそんなことはないと思います。私たちだ、て同じ人間です。
---	--

- イ PTA講演会 「夢をあきらめない」 ～自分を信じて～ （車いすダンサー 奈佐誠司氏）
 自他の良さを発見しながら、差別や偏見のない心で、前を向いて生きることの大切さを伝えることによって、各自の生き方を考える。



【一番困ること】



【USJ パレードに参加】



【レッツダンス！】

《生徒の感想 3 年生》

奈佐さんは、明るいい人だと思いました。
 車いすでも気にせず、講演会では面白いトークで私達を笑わせてくれました。
 私達を笑わせてくれただけでなく、自分のこれまでの人生を情緒豊かに話してくれたり、
 自分の経験を通して、夢をあきらめないことの大切さを教えてくれました。
 USJ のパレードのオーディションに 10 回落ちても、
 あきらめずに今も挑戦続けていることにとても感心しました。私も奈佐さんを見習って自分の夢をあきらめず、努力していきたい、と思いました。

《父兄の感想》

- ・障害を乗り越え、どこまでも明るくポジティブに幸せを掴んだすばらしい人です。
- ・いろいろなことに挑戦して行く勇氣に大きな拍手を送ります。
- ・生きる力と喜びと覚悟が伝わってきた講演会でした。子どもと共通な話題で話し合えたことも貴重な 1 日となりました。
- ・心のバリアフリーをダンスパフォーマンスで表現することを 10 年以上講演活動として続けてきたことは、すばらしい。

ウ 全校活動

集団の一員として役割を果たしたり、自覚をもって行動したりすることができる。



【小中学校あいさつ運動】



【校門の落ち葉掃き】



【福祉のつどいに参加】

3 成果

- ・人権教室や車イスダンサーの講演会を体験し、生命の大切さや個性の尊重などについて考えた話し合ったりすることを通して、人権の基盤である自他の生命を大切にするという認識を再確認できるようになってきた。
- ・道徳や学級活動の時間では、学年や学級の実態に応じて、タイムリーな新聞記事やニュース等から人権教育の教材を見つけ、工夫した授業展開をする取り組みも多く見られる。
- ・各学年で行われている体験活動の中で、生徒が自主的に企画・準備・運営を行うことを作ったことで、お互いの個性を認め、協力し、友情を深めようとする態度が身についてきた。
- ・ボランティアの大切さに気づき、行動につながってきた。全校生徒で行う「リサイクル活動」・クラス毎に実施した「落ち葉掃き」・「坂下地区福祉のつどい」に積極的に参加するなど、活動の輪が広がってきた。

II 今後の課題

各教科や道徳、総合的な学習の時間・学校行事など教育活動全体の中で、人権に対しての取り組みをさらに充実させ、生徒一人一人の人権感覚や人権意識を高めていきたい。また、校内研修の充実を図り、教職員の人権に対する知識や理解を高めていくことも大切である。さらに、検討中の人権コーナーを設置し、意図的・計画的な実践が図れるようにしていきたい。